

公益財団法人 日本クリスチャン・アカデミー機関誌

# はなしあい

題字 元総理 片山哲 筆

2026年5・6・7月号

編集発行人

公益財団法人 日本クリスチャン・アカデミー

代表理事 中村 信博

発行所

日本クリスチャン・アカデミー

京都市左京区一乗寺竹ノ内町2-3

075 (711) 2147

NIPPON CHRISTIAN ACADEMY

第642号

「愛は、愛する相手のために余地をつくる。イエスは、ぎりぎりの限界まで、この道を喜んで歩いた」。大学を卒業する際に、ある教授から贈られた書籍『きょうを生きる言葉 一日一篇』（日本基督教団出版局）の見開きに直筆で書かれていた言葉です。当該書籍を読んでいくと、続いてこのような言葉が綴られています。「最後には、十字架の上だけが、彼にのこされた余地であった。しかし、彼が私たちに余地をつくろうとしてくれたおかげで、いま、私たちすべてのために余地がある」と。以来この言葉は私の心に突き刺さったまま宿り続け、事あるごとに浮上しては私の在りようを映し出してきました。

教会での働きを経て学校に遣わされた当初は自分の授業が生徒たちに全く通用せず、いやに静かだと思つて振り返ると、生徒たち全員が爆睡していたという現実に立ち尽くすしかありませんでした。私の中学時代は管理教育が厳しく、学校の「指導」に対して疑問を持つことは許されませんでした。高校では進学のために、疑うことなく学校が所有する「正解」を正確に再現する技術を身につけてきました。そのような私が教員となつて、生徒を通して十字架の上のイエスから「あなたはどこにいるのか？」と問われて初めて、相手に余地がなかったことに気づかされました。「こうあるべき」「こうするべき」「こう考えるべき」といった「べき



## 「生きる糧としての『問い』」

関西セミナーハウス活動センター  
運営委員

桜井 希

論」の押し付けは生徒たちを窒息させるばかりで、そこに愛はありませんでした。「正解」を握りしめて安住している、自身を正当化することに固執して相手を裁くようになり、それは正しいか」と問い続ける方が、もの見方や考え方の違う相手を受け入れる余地が生まれ、その

思いがそうさせます。修学院フォーラムでは講師の方々を通して示される問題の所在や歴史的経緯、現状と課題に対して様々な問いが投げかけられます。現場からの「声」を自分事として捉えようとする参加者からの「問い」は、おのずとその人自身の課題との格闘を物語ります。それぞれの「問い」を分かち合い、「問い」に

応える取り組みの中で連帯が生まれていく。「問い」を持つことで、私たちは人生を主体的に生きるようになるのではないのでしょうか。

「戦争」の反対の言葉は『平和』ではなく『対話』だ」とは、『台湾有事』を起こさせない・沖縄対話プロジェクトを立ち上げた岡本厚さん（元岩波書店取締役社長）の語りです。戦争が「平和のため」「自衛のため」という大義を掲げてなされている現実と、「戦争」というのは「言葉」の欠如であり「対話」の不在であるという認識が込められた言葉です（岡本厚さんの講演は関西セミナーハウス活動センター編『戦争の時代』にしないために、非暴力・平和主義を求めて』（キリスト教新聞社）に収録されています）。アカデミー運動は「出会い」「話し合い」「支え合い」を理念としてきました。この運動が対話を求める人たちにとっての出会いと学びの場であり続けるために、私たちは「問い」を糧として受けとめ、問われ続けることに耐える覚悟が求められているのだと思います。

（同志社中学校・高等学校教諭）

レーニング」というテーマで、友野富美子講師によるワークショップを月に一度のペースで開催する。礼拝の司式や聖書朗読、詩編交読、説教などの発声・発語の訓練を行う。このプログラムは対面で実施する。

10. 各神学校の枠を超えた神学生たちの交流を目的とした「神学生交流プログラム」については、2026 年度も各神学校の賛助を得て、第 16 回プログラムを実施する。会場等が未定であるが、可能であれば対面とオンラインを併用して実施したいと考えている。

11. 上記以外にも、現在は具体的な計画は立っていないが、「今日的課題」として、シオニズム・パレスチナ問題をテーマとした特別講演会や「宗教対話」として、都内の宗教施設等を訪問するフィールドワークを実施したいと考えている。

関西セミナーハウス活動センターでは、本年度においても、アガテミー運動の根幹であり、活動の基軸である「はなしあい」と「対話」を通して、講演者の豊富な知識や鋭い分析力、言外に込められた平和への祈りや願いに触れることを願って、フォーラムやワークショップなど実施する。

そして、今日必要とされるテーマや運営方法や形式について検討し、取り組む。

具体的には以下の事項について検討し、実施する。

1. 『「戦争の時代」にしないために』出版記念会の実施と販売
2. ドイツアカデミーとの連携の検討
3. 環境プログラムの継続実施の検討ならびに新たなフォーラムの模索
4. 広報の見直しと実施
5. 参加者や報告書、YouTube などの利用者拡充への取り組み
6. 寄付金・者ならびに賛助金・会員の拡充への取り組み
7. 委員会運営方法を見直し、タスク、実行委員、アドバイザーの活用
8. 事務局機能ならびに業務の見直しと再構築

フォーラム事業		
関東フォーラム 宗教対話Ⅰ	10 回	読書会「キリスト教と文学」講師・柴崎聰(詩人、日本聖書神学校講師) 会場:NCA 事務所 対面開催 クレアム・グリーン『情事の終わり』(上岡伸雄訳)、阪田寛夫『まどさん』、モンゴメリ『赤毛のアン』(村岡花子訳)、山本周五郎『赤ひげ診療譚』、モーリヤック『テレーズ・デスケイルウ』(杉捷夫訳)、三浦綾子『細川ガラシャ夫人』上下、ベルンハルト・シュリング『朗読者』(松永実穂訳)、宮沢賢治『よだかの星』『銀河鉄道の夜』『オツベルと象』、ライナー・M. リルケの詩、川越宗一『パシオン』など
関東フォーラム 宗教対話Ⅱ	1 回	柏木義円公開講演会 講師・未定 オンライン開催 (共催: 柏木義円研究会)
関東フォーラム 宗教対話Ⅲ	10 回	イエスとともに生きて死す〜ハンス・キュングの生涯と思想 講師・福嶋 揚(神学者) オンライン開催
今日的課題	3 回	LGBTQ+キリストチャン 講師・寺田留架 オンライン開催
ワークショップ	7 回	さらに豊かな礼拝のためにことばを届けるトレーニング 講師・友野富美子(日本キリスト教団深川教会牧師) 会場 日本キリスト教団 東中野教会 対面プログラム
神学生交流プログラム	1 回	第 16 回神学生交流プログラム 校長 神田健次(関西学院大学名誉教授) 講師 未定 開催場所未定 対面・オンライン併用

フォーラム事業			
修学院フォーラム 社会	第 1 回	尊厳の学び〜他者、そして、自分を大切にするために 講師 ジェフリー メンセンディーク Jeffrey Mensendiek(桜美林大学ビジネスマネジメント学群准教授)	5 月 9 日(土)
	第 2 回	現場から平和を作り出す 講師 飛田雄一(公益財団法人神戸学生青年センター理事長)	6 月 27 日(土)
	第 3 回	〈エネルギーを考える〉 核エネルギーから再生可能エネルギーへ(仮) 講師 青木美希(ジャーナリスト、作家) 講師 交渉中	10 月 11 日(日)~12 日(月・祝)
	第 4 回	ボンコツでいこうー「後期新自由主義」への抵抗 講師 桜井智恵子(自由学園特任教授)	11 月 7 日(土)
修学院フォーラム 福祉	第 1 回	ユース・エンバワメント(仮) 共催 京都 YWCA 講師 交渉中	未定
修学院フォーラム いのち	第 1 回	「哲学によって社会をデザインする」(仮) 講師 谷川 嘉浩(哲学者、京都市立芸術大学美術学部デザイン科講師)	9 月 12 日(土)予定
	第 2 回	「釜ヶ崎キリスト教協会からの働きから」(仮) 講師 秋山 仁(釜ヶ崎ディアコニアセンター喜望の家代表、日本福音ルーテル豊中教会 牧師) 講師 佐々木 愛(関西学院大学神学研究所、関西労働者伝道委員会)	9 月 26 日(土)
	第 3 回	解釈学のひらく平和の地平ーカール・バルトの解釈学に学ぶー 講師 石川立(同志社大学名誉教授)	10 月 24 日(土)
	第 4 回	旧約聖書と現代の課題(仮) 講師 月本昭男(立教大学・上智大学名誉教授)	3 月 21 日(日)~22 日(月・休)

研修・セミナー・体験交流事業

開発教育 セミナー	第 1 回	開発教育入門セミナー 〜食べ物から考える世界とわたし〜 〜人権、平和、環境などの地球的課題を考えるワークショップ〜 共催 京都市国際交流協会 「写真で学ぼう! 地球の食卓」 「のぞいてみよう! チョコレートが私たちにとどくまで」	6 月 21 日(日)
--------------	-------	---	-------------

III 関西セミナーハウス活動センター2026年度事業計画

平和な世界が見通せないこの時代の真っ只中において、平和がやがてこの世界を覆い、最も小さく、弱い人も、等しく顧みられ、和らぐ日が訪れることを願ひ、私たちは取り組んできました。

## 公益財団法人日本クリスチャン・アカデミー 2026年度事業計画

公益財団法人日本クリスチャン・アカデミーは、2026年度の実業計画を次の通り定める。

### I 事業計画基本方針

本法人の使命を果たすために、2026年度において以下の基本方針を掲げ、新たな活動や事業方針を検討し安定した財団運営を推進する。

#### 1. 財団事業の展開

1) 定款に定められた当財団の目的に添って、キリスト教精神に基づき、立場の相違を越えた「はなしあい(対話)」を通し、自由、平等、正義、平和に基づく社会の実現に寄与する事業を一層活発に展開する。

2) ① アカデミー運動における事業活動は、研修・セミナーは「はなしあい」を基本として積極的に集合形式を計画するとともに、リモート形式についても運営方法の充実をはかる。

② 関西セミナーハウスの事業は、現在の社会状況を踏まえつつ、事業展開の可能性を模索し、新たな運営に取り組む。

3) 東・西施設の適切な運営管理を行い、法人運営の健全化を進める。

#### 2. 事業の推進

##### 1) 公益目的事業

###### (1) 東・西活動センター

① 「はなしあい」を基本とした現行のフォーラム事業及び研修・セミナー・体験交流事業を継続、発展させる。

② 各活動センターのプログラムは、それぞれにおける収支バランスをとることを原則とし、且つ事業費、寄付金収入も含めて、各活動センターとしての収支バランスの取れた運営を目指す。

③ 講師ならびに参加者同士の対話を中心に進めつつ、オンライン会議においてもより充実した運営方法に取り組む。

④ アカデミー運動の目的に従って今日的な社会の課題に対する認識を深め、それにふさわしい新規プログラムの開発と効果的な広報に取り組む。

⑤ 得られた成果については機関紙ならびにデジタルツールなどによって広く社会に発信し、啓発活動を活発化する。

###### (2) 関西セミナーハウス

アカデミー活動の安定的継続を支援するため、宿泊施設・会場を諸団体、教育機関・学会・研究会活動等の広い利用に供する方策を検討し実施する。

##### 2) 収益事業

###### 日本キリスト教会館

当財団所有の事務所用物件の一部を貸与し、その収益を当該施設の補修、維持、向上等及び公益活動への貢献に資する。

なお、借主及び管理組合との交渉に関しては、財団本部が責任をもって行う。

##### 3) 広報活動

フォーラム事業、研修・セミナー・体験交流事業等の内容並びに各年度事業計画・予算及び事業報告・決算を機関紙「はなしあい」において定期的に報告

するとともに、より効果的な広報を検討し取り組む。

具体的には広報先やツールなどについて、効果的に且つ効率的に行う方策を検討し実施する。このことによって本法人の使命や活動をより広く知らせ、理解者、賛同者ならびに事業や活動の参加者、利用者の増加につなげる。

東・西活動センターおよび関西セミナーハウスの活動状況については、ホームページやSNS等によって積極的な情報発信を継続する。

#### 3. 運営推進体制の安定化

公益目的事業の運営推進に当たって、継続的な事業に関しては明確な方向性と予算計画を持ち、プログラム毎の収支の整合化を原則とする。新規プログラムについても、必要財源を確保し、活動の安定的展開を目指す。

#### 4. 賛助会員、寄附金の拡充

公益目的事業、広報活動等を積極的に展開して、アカデミーの理念の理解、浸透につとめ、アカデミー運動を支えようとする賛助会員及び寄附金の仕組みや広報について見直し、拡充に取り組む。

5. 本法人の使命に基づき健全に運営を継続するため、各事業を推進する人財を育成し確保するとともに、役員・委員との連携を強化する。

### II 関東活動センター2026年度事業計画

2026年度の関東活動センターは、日本クリスチャン・アカデミーの理念に基づき、以下のような諸プログラムを計画している。

1. 関東活動センターは、これまでの連続講座に加えて特別講座等を開催し、関東活動センターの活動に関わる人を増やしていきたい。

2. 関東活動センターの運営委員は、伊藤貴則、浦上充(運営委員長)、小田哲郎、小泉麻子、古賀博(所長代行)、東矢高明、友野富美子、平井祐美子の8名で運営していく。

3. 感染症のパンデミックを経て培ったノウハウを用いて、対面とオンラインを併用して講座やプログラムを開催していく。

4. 各プログラムの開催は、これまでにも共に活動してきた早稲田奉仕園や柏木義円研究会等と協力しながら開催していく。

5. 「宗教対話Ⅰ」として、昨年度に引き続き、柴崎聡講師による少人数の読書会「キリスト教と文学」を実施する。このプログラムは対面で実施する。

6. 「宗教対話Ⅱ」として、これまでに引き続き柏木義円研究会との共催で、柏木義円の現代的意義を問う公開講演会を実施する。

7. 「宗教対話Ⅲ」として、「イエスとともに生きて死す〜ハンス・キュンクの生涯と思想」というテーマで、福嶋揚講師の連続講座を実施する。このプログラムはオンラインにて実施する。

8. 「今日的課題」として、「LGBTQ+クリスチャン」というテーマで、寺田留架講師を招いて実施する。

9. 「ワークショップ」として、昨年度に引き続き、「さらに豊かな礼拝のために ことばを届けるト

(2 頁より続く)

開発教育 セミナー		講師 富永有里・林由輝子(地球市民フォーラムなら)、友前尚子・西上壽一(開発教育研究会)	6月21日(日)
	第2回	『カレー移民の謎』から考える私たちの社会 講師 室橋 裕和(アジア専門ジャーナリスト、武蔵野大学非常勤講師) オンライン開催	7月12日(日)
	第3回	戦争ができる国にしないために～フェミニスト平和運動から学ぶ～ 講師 秋林こずえ(同志社大学大学院グローバル・スタディーズ研究科)	10月3日(土)～4日(日)
	第4回	どうする？気候危機～いのち、暮らし、未来～ 共催 開発教育協会 ゲスト: 田中十紀恵(気候ネットワーク) 北橋みどり(株)能勢・豊能まちづくり その他、調整中	10月31日(土)～11月1日(日)
	第5回	ある家族の記憶から～『満蒙開拓』と中国帰国者～ 講師 山崎 努(京都大学大学院文学研究科特定研究員)	12月19日(土)～20日(日)

IV 関西セミナーハウス 2026 年度事業計画

2026 年度の関西セミナーハウス事業計画は、以下の通りとする。

1. 運営方針

- 1) コロナ禍以降の回復期を経て、本年度は「施設の付加価値向上」と「新規顧客層の開拓」を軸に、持続可能な運営体制を確立する。
- 2) 宿泊・会議利用の最大化を図り、財団経営安定化に寄与する。
- 3) 既存顧客のリピート率を維持しつつ、デジタルツールや O T A (オンライン旅行代理店) を活用した積極的な情報発信により、個人宿泊者への認知度向上を図る。
- 4) 関西セミナーハウス施設維持管理を目的とした寄附金の募集を継続する。
- 5) 関西セミナーハウスの運営に関する諸課題については経営委員会で検討し、運営する。

2. 予算編成上の留意点

- 1) 会計単位別の収支予算書に加え、関西セミナーハウスについては損益計算書を作成する。
- 2) 職員の人件費について、本部と関西セミナーハウスの従事割合により配分する。従事割合は 2025 年度と同等とする。

3. 主な数値目標

- 1) 収入計画 (P&L ベース)  
売上高 87,177,500 円  
営業利益 △ 6,889,184 円
- 2) 設備投資計 3,000,000 円
- 3) 年間宿泊者目標 5,200 名
- 4) 年度期首要員 13 名 (職員 3 名、パート 11 名)

4. 数値目標達成のための具体的方策

1) 収入計画

- ① 団体研修事業の深化と閑散期対策
  - ・収益の根幹である団体研修パックの重要性を再認識し、既存上位団体への接遇および施設の付加価値を高めることでリピート利用を確実にする。
  - ・1月、2月の閑散期対策として、安価な平日 2 食プランや学生合宿プランを継続・強化し、稼働率の平準化を図る。
- ② O T A (個人宿泊・別館) の本格稼働

- ・11月もみじシーズンからの本格稼働を目指し、春から日本向け O T A (オンライン旅行代理店) の利用を開始し、認知不足の解消と集客増を図る。
- ・別館の単独宿泊事業 (和室「桜」一棟貸し) については 2025 年度の実績を踏まえ送客業者と連携し、インバウンドやグループ客の取り込みを強化する。

③ 食堂・喫茶事業のブランディング

- ・セルフサービス方式への転換をポジティブに活かす策として、中庭を「きららテラス」として整備し、屋外席でも食事を行うことができるサービスを開始する (GW明け～10月頃)。
- ・食事面での付加価値向上として、献立に季節の料理や地元京料理を取り入れる。
- ・喫茶コーナーでは夏期に向けた商品開発や、環境整備を行い、滞在満足度を高める。

④ 茶室・イベントの活用と若年層への訴求

- ・茶室「清心庵」の体験型広報事業として、愛好家向けの関西セミナーハウス主催本格茶会を秋に実施する。また初心者・来館者向けの定期呈茶を毎月 1 回実施し、将来的な定期利用者の獲得につなげる。
- ・オープンハウスイベントで「大学茶道部による茶席」を企画し、他大学との交流を通じて若年層への認知拡大を図る。
- ・オープンハウス (さくらの会、もみじの会)、お茶会、能楽堂の利用拡大、寄付者への感謝会等を積極的に企画し、関西セミナーハウスの認知度を深めるとともに、地域社会との交流を浸透する。スケジュールは以下の通り。

< イベントスケジュール >

開催時期	イベント名	イベント内容
第一四半期	さくらの会 オープンハウス 4月5日(日)	枝垂れ桜のライトアップ(駐車場) 春の個人宿泊プラン 能舞台開放、お花見茶席 対象: 寄付者、利用者、近隣
	「きららテラス」オープン	中庭テラスに飲食スペースを新設
第二四半期	カブトムシまつり 6月28日(日)	第4回カブトムシイベント 前泊個人宿泊プラン 参加者交流
第三四半期	本格茶会 11月22日(日) もみじの会 オープンハウス 11月23日(月祝)	愛好家向けの本格的な茶会 もみじライトアップ(中庭・駐車場)、もみじ野点席
	クリスマス イベント12月	平日に宿泊プラン 展示、イルミネーション
第四四半期	宿泊研修2食プラン ゼミ合宿プラン	格安プラン 学生向けの安価プラン

⑤ 施設維持・設備投資

- 空調：ラウベンダーホールのエアコン入替 (5月)、LED化：1階ロビー、フロント事務所、大会議室、厨房を優先的に LEDへ適宜更新する。
- 庭園・外観：中庭の芝生張替えおよび、もみじの補修と植樹を実施する。

⑥ デジタル広報の強化

- Instagram の更新頻度向上、およびロビーモニターと玄関デジタルサイネージの併用により、館内イベントやプランの周知を徹底する。

2) 支出計画

- ① 人件費  
今年度も引き続き職員 3 名体制とする。パートについては宿泊者数計画に応じて適正な要員を配置する。
- ② 食堂委託  
引き続き(株)ワンアップジョブ(旧京都スタッフ)と業務委託契約を締結する。契約内容については宿泊

AIG高校生外交官プログラム事務局	松田 光代	小野田 照代
福田 為謙	吉中 尚子	後宮 嗣
秋のオープンハウス(匿名)	岩坂 二規・泰子	柳井 一朗
一般社団法人和儀 茂山 千三郎	喜多村 やよい	大谷 隆夫
関西セミナーハウス活動センター	宇野 稔	喜多村 やよい
賛助会費	上條 美代子	鳥井 清司
岡安 茂祐	都木 かおり	伊藤 威知郎
樋口 よう子	丸山 まり子	杉本 尚司
斉藤 洋子	湖月 美和	日野 多恵子
高寺 幸子	南 和子	日本基督教団 西が丘教会
林 律	伊藤 威知郎	岡安 茂祐
梅山 猛	青木 真知子	菅原 幸子
森口 克洋	金山 顕子	山岡 義生
今川 泰彦・喜子	中上 和子	募金箱(修学院フォーラム)
五十嵐 萬里子	大谷 光真	丸山 まり子(開発教育セミナー)
松岡 蓉子	菅 恒敏	織田 雪江(開発教育セミナー)
伏木 信次	桜井 希	友前 尚子(開発教育セミナー)
陶村 世佳子	西脇 洸一	クリスマス寄付金
竹中 百合子	西岡 裕芳	根岸 宏邦
藤田 恭子	日野 多栄子	福田 為謙
中村 信博	島田 誠一	小久保 正
医療法人わたなべクリニック	木原 諄二	林 律
高塚 郁男	山岡 義生	藤田 恭子
木下 壽子	岡野 彩子	濱崎 敦
山本 貴之	日本基督教団京都教会	木原 諄二
山本 俊正	寄付金	藤田 敦子
鳥井 清司・操	横野 朝彦	橘 俣子
シュペネマン大島 偕美	森口 克洋	武山 泰子
吉田 力	川北 かおり	多田出 佳代子
橘 俣子	長村 光造	堤 龍春
堤 龍春	山本 公平	山本 俊正
真鍋 裕子	加藤 庸子	丸山 まり子
佐藤 友紀	竹中 百合子	多木 秀雄
田辺 信子	藤田 恭子	京都みぎわキリスト教会
多木 秀雄	熊谷 文郎	竹中 百合子
織田 雪江	中村 信博	島田 恒
山添 みどり	山本 俊正	宮本 桂子
新宗連大阪事務所 公文孝枝	小久保 正	神崎 清一
八杉 恵	姫野 眞知夫	日本基督教団和歌山新生伝道所
西川 淑子	クリスチャン M.ヘアマンセン	池田 令子
村上 みか	桜井 希	井田 光昭
近藤 恵	山添 みどり	伊藤 正子
水戸 潔	坪野 えり子	今川 泰彦・喜子
巽 義治	大野 三枝子	浦 晴子
浦 晴子	村上 みか	織田 雪江
小澤 妙子	水戸 潔	川北 かおり
匿名	野田 純一	吉田 力
木村 護郎クリストフ	大頭 眞一	木下 壽子
小笠原 純	藤田 敦子	徳永 由美子
田中 義信	匿名	西尾 信
福田 為謙	池田 千恵	在日大韓基督教京都教会
李 善恵	長谷川 義紘	日本基督教団世光教会
徳丸 延子	福田 為謙	在日大韓基督教会京都南部教会
クリスチャン・M・ヘアマンセン	徳丸 延子	日本基督教団交野教会
奈倉 道隆	武山 泰子(夏期献金)	日本基督教団平安教会
川北 かおり	京都みぎわキリスト教会	日本基督教団草津教会

教の異端、宗教に基づくユダヤ人というアイデンティティを世俗的民族主義に置き換える者として退けたのに、キリスト教シオニズムの終末論がユダヤ教のメシアニズムと結びつけられて宗教的な要素となったのです。

キリスト教シオニズムが生まれる土壌として、個人で聖書を読むようになり、聖書は神の言葉で誤りがなく、預言の書であるという理解があるとして、宗教改革からプロテスタント正統主義を「クリスチャン・シオニズムの母胎」、キリストの再臨をパレスチナ人のユダヤ人の帰還と再興を結びつける再興主義が「原クリスチャン・シオニズム」として16世紀後半から17世紀にかけてあったことを、アイザック・ニュートンら11名の再興主義者を挙げてシオニズムの源流として説明されました。そして1800年から1875年の間に2千人以上がパレスチナを「聖地」とする著書を書いており、これがシオニスト国家建設に直接繋がるクリスチャン・シオニズムの始まりで、イギリスがその起源であることを明らかにされました。

クリスチャン・シオニストと団体を具体的に挙げてその設立者や活動を説明されました。またアイルランド聖公会のジョン・ネルソン・ダービーが聖公会を離れてドイツペーンセーション主義の独立教会グループを設立し、1862年以降米国に渡り多くの福音派の指導者たちを生み出しました。これが、現在の米国でクリスチャン・シオニスト指導者と団体が1億人を超えるキリスト教徒と、10万人以上の牧師を擁していることに繋がっています。またダービーの聖書解釈が「正統教義」となり、ユダヤ人がパレスチナに帰還しイスラエルが再興することでキリストが再臨すると信じられるようになったのです。

アメリカのクリスチャン・シオニスト団体と政治家も紹介され、その中には『オリブライフ』を発行するBFP等日本でも活動しているものもあります。アメリカではクリスチャン衛星放送局CBNの存在やクリスチャン・シオニスト団体全体で3億ドル（約450億円）もの年間予算を有しており、絶大な影響力を持つているのです。パレスチナの平和にとっての最大の敵はクリスチャン・シオニスト

であり、クリスチャン・シオニストがいなくなれば、シオニスト国家「イスラエル」は維持できないと指摘して講演は終りました。（報告 小田哲郎）

関西セミナーハウス活動センター

●2025年度「開発教育セミナー」第5回  
「日本とコリアの過去・現在・未来  
〜共に生きる隣人として出合いなおすすめ〜」

講師 同志社大学グローバル・スタディーズ研究科教授 太田 修さん

2025年12月20日(土)〜21日(日)  
会場 関西セミナーハウス

戦後80年、日韓国交正常化から60年の節目の年に「日韓条約」について学び直し、植民地支配に対する謝罪や補償はどうなっているのか、また、植民地主義や人種差別を非難した「ダーバン宣言」以降の世界の潮流から考えた時に、日本とコリアが良き隣人であるために、私たち市民ができることは何か考えることをねらいとした。

第1セッションの「バーチャルインタビュー」では、在韓被爆者、日本軍「慰安婦」、強制



戦後80年、日韓国交正常化から60年の節目の年に「日韓条約」について学び直し、植民地支配に対する謝罪や補償はどうなっているのか、また、植民地主義や人種差別を非難した「ダーバン宣言」以降の世界の潮流から考えた時に、日本とコリアが良き隣人であるために、私たち市民ができることは何か考えることをねらいとした。

第1セッションの「バーチャルインタビュー」では、在韓被爆者、日本軍「慰安婦」、強制動員労働者、在日コリアンの傷痍軍人やBC級戦犯のライフヒストリーから、「日韓条約で解決済み」とは言えない現実に向き合った。太田さんから日韓条約のうち基本条約と請求権協定を中心に説明いただき、「ダーバン宣言」以降の世界の潮流の中では、条約・法による「解決済み」がなされたか、「過去の克服」がなされたか、という問いとして考え続けるといふことに共感した。これは戦後ドイツが取り組んできたことでもある。今回、ドイツ・ポーランド関係を日韓関係と比較しながら学ぶ大学生が多数参加しており、他の参加者を含め、質問や意見が活発に交わされた。

第2セッションは、朝鮮史を研究するようになった太田さんの自分史から、日本とコリアの現代史を知った。また、韓国の民主化運動への連帯、京都・東九条での活動、最初の訪韓での在韓被爆者との出会いや、11年に及ぶソウル留学での出会いと経験が、今の研究につながっており、当事者としての捉えた参加者もいた。

第3セッションでは、1950年代に台頭した在日朝鮮人「特権」論について話を聞いた。特権と聞くと2000年代に始まる在特会の言説を連想するが、1950年代に日本政府や国会、新聞などで語られていたことに驚いた。レイシズムはそれほど根深く、メディアの情報から真実をどう見極めていくのか、今の課題も見えた。最後のワークは、「ソウル歴史散歩」と題して、景福宮周辺、北村韓屋村、明洞、仁寺洞、忘憂歴史文化公園など、日本と関連のある資料を読み、ツアーのポスターを作成し発表した。参加者にとって各地の史跡がソウルで訪れたい場所となり、「過去の克服」の中の「歴史記憶の継承」につながる取り組みとなった。





●2025年度修学院フォーラム「福祉」第3回  
 「共に生きる社会を目指し」  
 ～東九条マダンに託す願い～  
 講師 音楽家 朴 実（ばくしる）さん  
 2026年1月17日（土）  
 会場 関西セミナーハウスとZoomによるオンライン

朝鮮（韓国）と日本の近現代史を朴さんの個人史よりお話を伺い、日本社会の有り様と、「ともに生きる社会」について考える機会として企画された。

朴実さんは、在日2世として、京都東九条に生まれ、今日まで暮らして来られた。半生をお語りいただいた中で、ご自身の氏名をめぐる、長年の道のりは、特に壮絶なものだった。「創氏改名」に始まり、小学校の名札への落胆、日本国籍へ「帰化」された際に強制された「日本的氏名」から、二度の裁判により、日本で初となる民族名を取り戻されるまで、自分の名前を名乗るといふ、当たり前と思えるほどのことが、これほどの闘いを経なければならなかったことは、どうにも理不尽に思われた。

長く大切にしてこられた「東九条マダン」のご紹介や立ち上げからの経過を語られることを通して、東九条の地域に生きる証しを聞いた。

朴さんは、在日韓国朝鮮人差別、被差別部落差別を、ご体験から率直に語られた。これらの差別を受けることより、キリスト者としての生き方を見出されたのではないかと、音楽との歩みもまた、人生を支えるものと語られ、会を終わりには、ピアノ曲の演奏と、自ら作詞作曲された「ウリエアボジオモニヨ（わたしたちの父よ母よ）！」の弾き語りをしてくださった。

日本社会、地域社会の抱える今日の課題に対しての、私たちの視点、視座が与えられたのではないかと。

課題を克服するといふよりも、課題と向き合い、どう協働して、共生していくのが、引き続き、私たちの課題であることに気づかされた。



関西セミナーハウス  
 4月5日  
 「春のオープンハウス」開催  
 好天に恵まれた春の一日、野点席や、タケノコ弁当、スタンプラリーなどを楽しんだ。初の試み、ストーリーピアノは、ネットで調べて来たという愛好家もあり、熱演が絶え間なく続いた。



表紙装画  
 渡辺総一(画)  
 「戦争の時代」にしないために  
 「平和を作り出す人」  
 (2022年)  
 \*原画は、関西セミナーハウス館内でご覧になれます。

「戦争の時代」にしないために  
 非暴力・平和主義を求めて  
 関西セミナーハウス活動センター編

2026年1月20日 キリスト新聞社刊  
 ISBN 978-4-87395-847-7  
 定価 1,650円（税込）  
 ◎お求めは、関西セミナーハウス活動センターまで。送料当方負担でお送りします。

ウクライナ、中東情勢、台湾有事——。不安が煽られる時代に、非暴力と平和主義の思想と実践を問い直す。修学院フォーラムのシリーズ「戦争と平和」講演録。

- 第1部 「戦争の時代」にしないために  
 『戦争の時代』にしないために  
 —沖縄対話プロジェクトの経験から 岡本 厚  
 “地雷”ではなく、“花”を  
 —報復ではなくいのちの連鎖へ 松浦悟郎
- 第2部 中東の平和は可能か  
 今、中東では何がおこっているのか  
 —イラン対アメリカ・イスラエル 中西久枝  
 預言書に学ぶ非戦のこころ  
 —第二イザヤを中心に 石川 立
- 第3部 非暴力・平和主義を求めて  
 咸錫憲(ハム・ソクホン)のシアル(民)思想が問いかける非暴力平和思想 朴 賢淑  
 歴史を変えた非暴力主義  
 —再洗礼派からキング牧師まで 踊 共二  
 戦争と兵役を拒否した人びと  
 —二つの世界大戦時の英米と日本 西村裕美

「戦争の時代」にしないために—非暴力・平和主義を求めて  
**出版記念フォーラム**  
 「戦争の反対語は、平和ではない。対話だ」  
 2026年5月23日(土)13:00~15:00

会場:同志社大学 今出川キャンパス 神学館3F礼拝堂  
 ≪主なプログラム≫  
 13:00 開会／主催・共催挨拶 **入場無料 申込不要** (敬称略)  
 13:10 主題講演 石川 立(執筆者・同志社大学神学部名誉教授)  
 14:00 パネルディスカッション(執筆者・登壇予定)  
 岡本 厚(元岩波書店社長、元雑誌『世界』編集長)  
 踊 共二(武蔵大学ベラルアーツアンドサイエンス教育センター教授)  
 中西 久枝(同志社大学グローバル・スタディーズ研究科教授)  
 西村 裕美(元立教大学コミュニティ福祉学部教授)  
 朴 賢淑(大阪女学院大学・短期大学准教授)  
 14:40 会場質疑応答  
 15:00 閉会／茶話会(神学館 G31 教室~16:00)  
 主催:(公財)日本クリスチャン・アカデミー関西セミナーハウス活動センター  
 共催:同志社大学神学部

AIG高校生外交官プログラム事務局	松田 光代	小野田 照代
福田 為謙	吉中 尚子	後宮 嗣
秋のオープンハウス(匿名)	岩坂 二規・泰子	柳井 一朗
一般社団法人和儀 茂山 千三郎	喜多村 やよい	大谷 隆夫
関西セミナーハウス活動センター	宇野 稔	喜多村 やよい
賛助会費	上條 美代子	鳥井 清司
岡安 茂祐	都木 かおり	伊藤 威知郎
樋口 よう子	丸山 まり子	杉本 尚司
斉藤 洋子	湖月 美和	日野 多恵子
高寺 幸子	南 和子	日本基督教団 西が丘教会
林 律	伊藤 威知郎	岡安 茂祐
梅山 猛	青木 真知子	菅原 幸子
森口 克洋	金山 顕子	山岡 義生
今川 泰彦・喜子	中上 和子	募金箱(修学院フォーラム)
五十嵐 萬里子	大谷 光真	丸山 まり子(開発教育セミナー)
松岡 蓉子	菅 恒敏	織田 雪江(開発教育セミナー)
伏木 信次	桜井 希	友前 尚子(開発教育セミナー)
陶村 世佳子	西脇 洸一	クリスマス寄付金
竹中 百合子	西岡 裕芳	根岸 宏邦
藤田 恭子	日野 多栄子	福田 為謙
中村 信博	島田 誠一	小久保 正
医療法人わたなべクリニック	木原 諄二	林 律
高塚 郁男	山岡 義生	藤田 恭子
木下 壽子	岡野 彩子	濱崎 敦
山本 貴之	日本基督教団京都教会	木原 諄二
山本 俊正	寄付金	藤田 敦子
鳥井 清司・操	横野 朝彦	橘 俣子
シュペネマン大島 偕美	森口 克洋	武山 泰子
吉田 力	川北 かおり	多田出 佳代子
橘 俣子	長村 光造	堤 龍春
堤 龍春	山本 公平	山本 俊正
真鍋 裕子	加藤 庸子	丸山 まり子
佐藤 友紀	竹中 百合子	多木 秀雄
田辺 信子	藤田 恭子	京都みぎわキリスト教会
多木 秀雄	熊谷 文郎	竹中 百合子
織田 雪江	中村 信博	島田 恒
山添 みどり	山本 俊正	宮本 桂子
新宗連大阪事務所 公文孝枝	小久保 正	神崎 清一
八杉 恵	姫野 眞知夫	日本基督教団和歌山新生伝道所
西川 淑子	クリスチャン M.ヘアマンセン	池田 令子
村上 みか	桜井 希	井田 光昭
近藤 恵	山添 みどり	伊藤 正子
水戸 潔	坪野 えり子	今川 泰彦・喜子
巽 義治	大野 三枝子	浦 晴子
浦 晴子	村上 みか	織田 雪江
小澤 妙子	水戸 潔	川北 かおり
匿名	野田 純一	吉田 力
木村 護郎クリストフ	大頭 眞一	木下 壽子
小笠原 純	藤田 敦子	徳永 由美子
田中 義信	匿名	西尾 信
福田 為謙	池田 千恵	在日大韓基督教京都教会
李 善恵	長谷川 義紘	日本基督教団世光教会
徳丸 延子	福田 為謙	在日大韓基督教会京都南部教会
クリスチャン・M・ヘアマンセン	徳丸 延子	日本基督教団交野教会
奈倉 道隆	武山 泰子(夏期献金)	日本基督教団平安教会
川北 かおり	京都みぎわキリスト教会	日本基督教団草津教会

2025年度賛助会費・寄付金納入者ご芳名 2025年4月1日～2026年3月31日  
(順不同・敬称略)  
ご支援に感謝申し上げます。

財団本部

終身会員

神崎 清一  
神保 正男  
神保 信子  
中井 博雅  
小久保 正  
野田 純一  
島田 恒  
横野 朝彦

寄付金

中井 博雅  
柳井 一朗

関東活動センター

賛助会費

松浦 茂長  
押切 稔  
友野 富美子  
平井 祐美子  
中村 信博  
村松 庸子  
北原 和夫  
河原田 美哉子  
竹中 百合子  
洞口 優子  
神保 信子  
竜野 かおる  
松井 直樹  
石川 憲彦  
上林 順一郎  
古賀 博  
大鹿 康廣  
星野 宗吾  
吉田 博  
市川 邦雄  
小田 哲郎  
神谷 伊勢男  
坂下 道朗  
木原 諄二  
西間木 公孝  
増田 博

寄付金

高柳 允子  
松浦 茂長  
大橋 祐治  
中村 信博  
中村 淑子  
原田 裕子  
中井 博雅  
増田 博  
石川 憲彦  
日本基督教団 早稲田教会

日本YWCA  
坂口 みどり  
石橋 光朗  
竹中 百合子  
アジアキリスト教教育基金  
林 律  
日本キリスト教団経堂緑岡教会  
加藤 真規子  
日本基督教団 霊南坂教会  
木原 諄二  
洞口 優子  
日本キリスト教団南三鷹教会

クリスマス寄付金

川北 かおり  
坂口 みどり  
小林 誠治  
河原田 美哉子  
松下 起子  
恵泉女学園中高・宗教部  
最上 光宏  
中井 博雅  
藤 知佳  
飯田 庸子  
日本キリスト教団須賀川教会  
日本基督教団 千代田教会  
日本基督教団 洛南教会  
日本基督教団 原宿教会  
日本基督教団 浦安教会  
横浜雙葉中学・高等学校

神学生交流プログラム寄付

中村 信博  
原 誠  
神保 信子  
中井 博雅  
島田 恒  
川北 かおり  
浦上 充  
浦上 佳織  
日本聖公会ウイリアムス神学館  
関西学院大学神学部 後援会  
吉田 博  
日本聖書神学校  
同志社大学神学部  
平井 祐美子  
石田 学  
日本ナザレン神学校  
日本キリスト教団東中野教会  
日本基督教団 代々木上原教会  
近カネ基金  
神田 健次  
仲程 愛美  
古賀 博

日本基督教団早稲田教会  
農村伝道神学校  
外谷 悦夫

関西セミナーハウス

寄付金

君村 昌・千代子  
株式会社 Goku-Labo  
土野 正義  
中井 博雅  
植松 文果  
カブトムシまつり 2025 募金  
神崎 清一  
柴田 賢司  
中村 信博  
林 律  
長谷川 義紘  
株式会社ワンアップ・ジョブ  
株式会社三原工務店  
代表取締役 北迫義人  
全国本田労働組合連合会  
中村泰洋園  
諫早 道子  
竹田 美和  
今若 京子  
岩崎 順子  
ダイキン工業労働組合  
株式会社田中工務店  
高の原カウンセリング研究所  
森口 克洋  
船坂 孝江  
株式会社新経営サービス  
林 喜右衛門  
木村 護郎クリストフ  
奈良 睦子  
横野 朝彦  
株式会社藤木工務店 京都支店  
牛尾 宣夫  
武藤 高司  
山本 俊正  
藤田 美和子  
和田野 勢津子  
宮地 紀子  
京都桃山アシュラム  
浅沼 弘一  
名取 琢自  
手島 洋  
八田 尚嘉  
神田 健次  
小田 美乃里  
西谷 直子  
嶋吉 由香  
芝野 貴臣

プログラム案内

◆関東活動センター

■2026年度 宗教対話Ⅰ

読書会「キリスト教と文学」

講師：柴崎 聡さん(詩人、日本聖書神学校講師)

日時：4月～2027年3月、第3火曜(8、12月休会)14:00～15:30

参加費：1,000円/回

会場：関東活動センター会議室(キリスト教会館1階16号)

■2026年度 宗教対話Ⅲ

イエスとともに生きて死す～ハンス・キムクの生涯と思想～

講師：福嶋 揚さん(神学者)

日時：4月～2027年3月、第4木曜(8月、12月休会)19:00～20:30

参加費：全10回12,000円、学生8,000円

方法：Zoomによるオンライン講座

■2026年度 今日の課題

「LGBTQ+とクリスチャン～性への理解が豊かにする、神・人・自分との関係」

講師：寺田留架さん(約束の虹ミニストリー代表)

日時：7月7日、8月4日、9月1日火曜20:00～21:30

参加費：全3回6,000円、学生3,000円

方法：Zoomによるオンライン講座

東 西 南 北

◎関西セミナーハウスは、京都市より「京都を彩る建物や庭園」に選定されました。

財団本部 HP



関東活動センターHP



関西セミナーハウス HP



KSH 活動センターHP



公益財団法人 日本クリスチャン・アカデミー 代表理事 中村 信博

本部事務局

〒606-8134 京都市左京区一乗寺竹ノ内町 23 TEL 075-711-2147 FAX 075-701-5256

関東活動センター

〒169-0051 東京都新宿区西早稲田 2-3-18 日本キリスト教会館 1F TEL 03-3207-6198 E-mail :info@academy-tokyo.com 郵便振替 00190-7-109437

関西セミナーハウス

〒606-8134 京都市左京区一乗寺竹ノ内町 23 TEL 075-711-2115 FAX 075-701-5256 E-mail :info@kansai-seminarhouse.com

関西セミナーハウス活動センター

〒606-8134 京都市左京区一乗寺竹ノ内町 23 TEL 075-711-2117 FAX 075-701-5256 E-mail :office@academy-kansai.org 郵便振替 01020-1-5184

■2026年度 話し方ワークショップ

「さらに豊かな礼拝のためにことばを届けるトレーニング」

講師：友野富美子さん(日本キリスト教団深川教会牧師)

日時：9月～12月、第2、4金曜(全7回)18:30～20:00

参加費：各回 1,500円/回

会場：日本キリスト教団東中野教会

◆関西セミナーハウス活動センター

■2026年度 修学院フォーラム「社会」

第1回ワークショップ「尊厳の学び～他者、そして、自分を大切にするために」

講師：ジェフリー・メンセンディークさん(桜美林大学ビジネスマネジメント学群准教授)

日時：5月9日(土)13:30～16:00

参加費：2,000円 学生1,000円

方法：会場関西セミナーハウスとZoom併用

第2回「現場から平和を作り出す」

講師：飛田雄一さん(公益財団法人神戸学生青年センター理事長)

日時：6月27日(土)13:30～16:30

参加費：2,000円 学生1,000円

方法：会場関西セミナーハウスとZoom併用

■「戦争の時代」にしないために—非暴力・平和主義を求めて— 出版記念フォーラム

「戦争の反対語は、平和ではない。対話だ。」(共催：同志社大学神学部)

日時：5月23日(土)13:00～15:00

参加費：無料(申込不要)

会場：同志社大学 今出川キャンパス

神学館3F礼拝堂(詳細8ページご参照)

■2026年度 開発教育セミナー

第1回「開発教育入門セミナー

～食べ物から考える世界とわたし

～人権、平和、環境などの地球的課題を考えるワークショップ～

(共催：京都市国際交流協会)

講師：富永有里さん、林由輝子さん

(地球市民フォーラムなら)、

友前尚子さん・西上壽一さん

(開発教育研究会)

日時：6月21日(日)10:00～16:00

参加費：2,000円

会場：kokoka 京都市国際交流会館

第2回「『カレー移民の謎』から考える私たちの社会」〈オンラインセミナー〉

講師：室橋 裕和さん(アジア専門ジャーナリスト、武蔵野大学非常勤講師)

日時：7月12日(日)13:00～17:15

参加費：4,000円

方法：Zoomによるオンライン開催

◆関西セミナーハウスご案内

月いち「お呈茶の会」

「清心庵の日」始めます。

- ・5月9日(土) 10:00～16:00 ※7月以降は後日発表
・6月6日(土) 10:00～16:00
・7月11日(土) 14:00～20:00(夕涼み開催)

◎事前予約/当日1,500円

(予約の方には「季節の生菓子」をご用意します)



▶問い合わせは、KSHフロントまで。予約フォーム

賛助会費・寄付金報告

2026年1月1日～3月31日 (順不同・敬称略)

◆財団本部

寄付

柳井 一郎

◆関東活動センター

賛助会費

小田 哲郎
神谷 伊勢男
坂下 道朗
木原 諄二
西間木 公孝
増田 博

寄付

アジアキリスト教教育基金
日本キリスト教団早稲田教会
加藤 真規子
日本基督教団霊南坂教会
木原 諄二
洞口 優子
日本キリスト教団南三鷹教会

神学生プログラム寄付

日本聖書神学校
中村 信博
浦上 佳織
同志社大学神学部
平井 祐美子

石田 学

日本ナザレン神学校
日本キリスト教団東中野教会
原 誠
日本基督教団 代々木上原教会
近力ネ基金
神田 健次
仲程 愛美
神保 信子
古賀 博
日本キリスト教団早稲田教会
農村伝道神学校

外谷 悦夫

クリスマス寄付

藤 知佳
飯田 庸子
日本キリスト教団須賀川教会
日本基督教団千代田教会
日本基督教団洛南教会
日本基督教団原宿教会
日本基督教団浦安教会
横浜雙葉中学・高等学校

◆関西セミナーハウス

寄付

神崎 清一

◆関西セミナーハウス活動センター

賛助会費

西岡 裕芳
日野 多栄子
島田 誠一
木原 諄二
山岡 義生
岡野 彩子
日本基督教団京都教会

寄付

日野 多恵子
日本基督教団西が丘教会
柳井 一郎
桜井 希
岡安 茂祐
菅原 幸子
山岡 義生
竹中 百合子

クリスマス寄付

在日大韓基督教京都教会
日本基督教団世光教会
在日大韓基督教会
京都南部教会
日本基督教団交野教会
日本基督教団平安教会
日本基督教団草津教会

以上、感謝を持ってご報告申し上げます。